

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1270201070		
法人名	有限会社福老の家		
事業所名	グループホームあんしん苑		
所在地	〒262-0001 千葉県千葉市花見川区横戸町893-1 (電話)043-250-0800		
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月15日

## 【情報提供票より】(平成21年3月4日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8人, 非常勤12人, 常勤換算20人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	577 円	昼食	630 円
	夕食	767 円	おやつ	実費 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	13 名	男性	5 名	女性	8 名	
要介護1		4	要介護2		4	
要介護3		4	要介護4		1	
要介護5		0	要支援2		0	
年齢	平均	87 歳	最低	81 歳	最高	101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	最成病院・ちぐさ診療所・ちぐさ会クリニック・都賀デンタルクリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は住宅地の一角に位置し、広大な雑木林に接する広い敷地の中にある新しい平屋の建物である。施設の裏の畑では野菜を栽培しており、季節ごとに利用者と一緒に収穫して食卓に添えられている。施設は理念実現のために利用者が「自分で選ぶこと、やれること、決めること」をモットーにケアに取り組んでいる。建物の出入口には鍵を掛けておらず、また、利用者が行いたい事を自由に選択できるなど開放的な運営をしている。管理者は職員と3か月毎に話し合い問題点を改善したり、内部研修は2か月に一度行いサービスの質の向上に努めている。職員は日頃の積極的なコミュニケーションの中で利用者から返される一言が何より嬉しいと述べるように、利用者の自立支援のために、質の高いサービス提供に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善状況は 運営推進会議は市の窓口、地域代表、家族、施設が参加して開き、施設の説明や地域との交流について話合っている。 職員の育成は内部研修を2か月毎に行っている。 看とりのシステムは実際の看とりに際しての記録を今後の手順としてまとめているなどである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員と話してまとめている。8項目の活動を取り上げた中で重点活動は 研修に全員が参加できるように企画しており、今回は記録の書き方を指導している。 避難訓練は消防署と協力して2回予定していて、今後は地域の参加を呼び掛けるなど積極的な計画を立てている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 市のあんしんケアセンター、市包括支援センター、自治会、民生委員、家族、施設代表が参加して会議が開かれた。テーマは施設の説明と地域交流について相談した。地域から小学校の催しを施設で開くことや、幼稚園のイモ掘り、中学校の実習生受け入れ等の相談があった。施設からは自治会への加入や防災訓練の参加を話し合っていて地域との連携が深まっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の要望や意見は、面会の時などに話し合いの中で聞いている。利用者からの苦情として、利用者が外部から取り寄せている商品を、職員が外出の時に買って来ることで利用者の負担を少なくするなどの対策を行い改善している。家族への連絡は毎月の報告の中に写真を入れた「家族へのお手紙」を発行することを検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域とは保育所との交流を3か月に1回、幼稚園の運動会、自治会館での喫茶店にボランティアと一緒に毎月2回参加する等の活動をしている。又小学校のバザーに参加して食べ物を買って楽しく過ごしている。傾聴と歌のボランティアが毎月7~8名施設に来ており利用者は楽しみとしている。地域交流は活発に行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の理念は開設のときから「その人らしく、その人で」と定めている。この理念を室内に大きく表示する予定であるが、利用者の思いを話し合いながら一人一人が書きとめて表示する事を検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設は理念実現のために利用者が「自分で選ぶこと、やれること、決めること」をモットーにケアしている。体調にあわせた行動予定等を投げかけて利用者の意見を聞き自分で選択して決めることを習慣にしている。	○	理念の周知で新たな方法に取り組もうとしている為と思うが、職員には良く理解されていなかったなので、まず表示をする等して共有出来るように工夫することを望む。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所と交流会を3か月に1回、自治会館の喫茶店でボランティアの人と毎月2回行ったり、幼稚園の運動会や小学校のバザーに参加して地域の人と楽しく過ごしている。傾聴と歌のボランティアが毎月施設に来ており利用者の楽しみとなっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目 運営推進会議は開催された 職員の育成では2か月に1度の内部研修を実施した 看とりのシステムづくりでは実践しながら対応した。今回の取組では8項目を話し合っていて、避難訓練への地元参加 職員の外部研修を最重点活動とした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年3月に開催し、市のあんしんケアセンター1名、市の包括支援センター2名、自治会長、民生委員、家族代表、施設は代表始め3名が出席した。施設の案内と地域の小学校などの交流や自治会加入の話し合いなどが行われた。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は、千葉市の研修会に参加している。、千葉県グループホーム連絡会1回、千葉市グループホーム連絡会に4回参加するなどの交流を通して行政の情報を得ている。介護相談員の派遣を受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は毎日来る人もいるが平均10日に一度位である。訪問時にはケース記録を見せて家族が安心出来るように利用者の状況を説明している。金銭は毎月の請求の際に使用の明細をつけて報告をしている。	○	家族へ連絡する方法では、以前に実施していた「家族へのお手紙」を、今回は写真を載せるなど見直して再度実施する事を検討中であったが、是非実現するように期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情は、部屋の中での持ち物が見当たらなくなった際に一緒に探し出して整理をしている。また、利用者が外部から取り寄せている商品を、職員が外出の時に買って来ることで利用者の負担を少なくするなどの対策を行い改善している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を抑える対策として3か月毎に職員と個別に話し合う取り組みをしており、昨年多かった離職は今年ゼロになっている。新しい職員には、利用者の昔話を聞くなどしてコミュニケーションを十分取り、利用者へ安心感を持ってもらうように指導している。	○	職員の移動による利用者のダメージを少なくするには、新しい職員と利用者とのコミュニケーションが大切であり、そのノウハウは利用者から話を聞くことなど指導者は多くの事例を持っている。職員みんなが活用するためにも、マニュアルにすることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員研修として内部研修を2か月に1度実施している。内容は今必要なケア、介護技術の指導、救命指導等である。外部研修は希望を取って参加の機会を設けている、身体拘束・おむつファッションショー・コミュニケーション研修等を受けていて職員からは意識の向上になっていると話があった。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>千葉県グループホーム連絡会、千葉市グループホーム連絡会に参加している。その中から「SOSネットワーク」地域密着型サービスの取組に積極的に参加している。また職員がおむつファッションショーに参加して施設に取り入れを提案するなどして質の向上に意欲的である。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>施設への入居を激しく拒む場合でも、あんしん苑の施設の生活を案内して話し合いを重ねながら、ホームで過ごす快適な事を理解してもらい入居している。職員は入浴を一緒にしながら慣れる関係を築いて介助に取り組んでいる。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者には手作り料理を手伝って貰いながら餅つきの手順とか、かぶの切り方、漬物の作り方を教えて貰っている。また漢字や方言を教えるなどしている。リビングには利用者と職員と一緒に作った折り紙の作品がきれいに飾ってある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所後も今までの生活リズム等を継続する観点に立ち、生活状況の把握に特に力を入れている。日々の生活においては、外出したい、居室でゆっくりしたいなどの本人の申し出を大切にケアしている。意思疎通が困難な者は、しぐさを見ての判断に努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時には、いわゆるセンター方式によるアセスメントを行い、家族の意向等を踏まえて計画を作成している。作成は、計画作成担当者、入所時の担当職員などが中心になって行っている。また、入所前にケアを受けていた事業所や病院、居宅支援事業所の意見等広く情報の収集にあたっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、3か月に1回計画作成担当者を中心に行っている。また、体の状況の変化等により計画の内容に変動が見られた場合には、その時点で訪問診療の医師等に意見を求め臨機に計画の見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関における受診は、協力病院以外は、家族が利用者に同行することになっているが、事情によっては、かかりつけ医のもとに職員が同行することもある。又、図書館へ送迎するなど社会資源の活用に積極的な面もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所後においては、継続的にホームと連携している協力病院において受診している者が多いが、現在1名、従来から診てもらっている専門医のもとへ家族と共に通っている者がいる。この場合は必ず診察の結果や医師の指示内容を家族から伝達されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームは、体調が重度化しても入院治療など医療行為の必要な者を除きケアすることとしている。終末期のケアについては、ここ1年の間に2人の看取りを行っている。訪問診療の担当医師との連携の中、家族と密接に連絡しながら対応している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについての配慮は、ケース会議や研修でもテーマにし、声掛けについても人権を損なわないように、またトイレや入浴にさりげなく誘導したり、あるいは女性には女性職員がケアに当たるなど気を配っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>あらかじめ利用者の日課や職員の行動はマニュアル化し定めてあるが、毎朝1人1人に、何をしたいかの選択をしてもらい、可能な限り、本人の希望に沿って予定を組んでいる。急な散歩、入浴、買い物、お花などがその事例であり理念と個性の尊重の実践である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は外注方式による調理師が担当している。あらかじめ1週間のメニューを作成してはあるが、園内の菜園でとれた野菜を献立に取込むなど更に変化をつけることもある。朝は介護職員と利用者が共同で調理し、月1回は、皆で手作り料理を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室はユニットごとに設置しており入浴時間は、介助を要する者は、午後9時までと決めているが、原則としていつでも好きな時に回数も制限なく入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割は、皿洗い、掃除、洗濯ものたたみからカレンダーの日めくり担当など多彩な内容である。年間に、花見、敬老会、もちつきなど楽しいイベントをもち、誕生日祝いも本人の選択により外出することもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は積極的に支援している。日常的には、本人の希望に沿った散歩、買い物が多いが、レストランの広告を見て急に出かけた例もある。又、花の美術館や海の見える所までドライブし楽しんでいる写真も確認できた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設には鍵を使用しておらず、玄関、入口の出入りは自由である。これは開設以来続いている。時々離苑する者もいるが地域の方が電話で知らせて施設に連れて来てくれている。家族の来訪は昼夜を問わず自由である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は定期的に行われていて3月の避難訓練実施では広い駐車場が避難場所になっている。施設には煙感知器が設置してあり、スプリンクラーは設置を検討中である。次の訓練は消防署と合同で行うことが決まっている。	○	災害に備えて避難訓練が実施されており、職員は非常時の対応のために利用者を安全に誘導する訓練に参加している。職員からも意見が出ているが今後、地域も参加して合同で行うことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、栄養士により作成され、バランスのとれたものになっている。カロリーも把握している。常食のほかミキサー食、おかゆを用意したり、食品アレルギーにも配慮している。水分の確保には気を使い、各自の摂食量と共に水分の量が綿密に記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングは、食卓のほか大きなソファを置き、季節感を出すひな人形やお花などを飾り、壁面には、利用者と職員が共同で作成したのれんなどの作品を掲出するなど皆が和み温かみを持てるように工夫している。廊下や玄関に、数多くのベンチを置き、気ままに過ごせるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の中に持ち込めるものは、なるべく、家庭で使いなれたものを持ってきてもらうことを基本にしている。したがって、各部屋ごとにその人らしく、カーテン、ベット、たんすなどを配置し、テレビや写真などの飾り物や仏壇を置いているところもある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。